

## 第5部 <[s]> 編

[s]の発音に関しては、独立した部「<[s]> 編」をたてて、特別に扱います。下記のように、[s]が特別な音だからです。

- ① [s]の発音は、英語の音の中でもっとも多く出てくる。それだけ重要。
- ② [s+子音(つなぎの音)+母音]のつなぎの音として、[s]だけが[r][l][w]以外の子音を続けることができる。これは[s]だけの特徴。組み合わせが多様になるため、習得が難しい。
- ③ 音のパターンは、Lesson47～55までの9パターンがある。
- ④ 音番号は、427 [se]から500 [swa]まで、74音ある。
- ⑤ とりあげた単語数は約240語。本書で扱う2000語の約12%にあたる。

### [s]音を制する者は英会話を制する

『英語耳』や『単語耳 理論編+実践編 Lv.1』では、[s]の音を真っ先に練習しました。いったん[s]が発音できてしまえば、英語の発音はだいぶ楽になる、という確信が私にあるからです。事実、「[s]から始めたのが効果的だった」という声も多数聞かれ、うれしく思っています。

しかし、私は、いつかもっとじっくりと[s]音について説明したいと考えてきました。その願いが実現できたのが、この<[s]>編です。ここでようやく、「[s]音の発音の重要性を整理できた。わかりやすい形で提供できた」と感じています。

少し心配なのは、練習すべき単語の数の多さに圧倒されて、「しりごみする人がいるのではないか？ 本当に各100回も練習してくれるのか？」という点です。ぜひ、果敢に挑戦して、すべてマスターしていただきたいと思います。

[s]は上前歯の裏に息をするどく当てて出す音です。上前歯裏の歯ぐきと舌先のあいだにせまい隙間すきまを作って、そこに息を誘導して出しましょう。アゴは閉じて、唇を横にひいてください。

[s]は、上前歯裏を息が摩擦まさつして音が出ますので、摩擦音の1種です。[s]では、ノドを絶対にふるわせないでください。日本語の「ス[su]」音になっ

てはいけません。[s]の後ろに[u]がついているかどうかは、[s]を発音してみ、ノドを押さえれば確認できます。ノドがふるえていなければ、ひとまずOKです。

この[s]に関しては、勝手に「自分はもうできている」と思っている方がほとんどです。しかし、たいていの場合、音が弱すぎます。強い息が必要だと気づいた方も、力んだ結果、雑音の入ったにごった音になってしまう人が少なくありません。付録CDをよく聞いて、ネイティブのように、澄んだキレのある音を出せるようになってください。

まずは、小さな音で、雑音の入らない透き通った音で[s]を10秒間、安定した息づかいで、ゆらくことなく出す練習をしてみましょう（楽器のロングトーンの練習と同じです）。口の中で空気を分散させると音がにごりますので、ほぼ100%の息を上前歯の裏に流して当てるようにします。

こうした点に注意しながら、『単語耳』シリーズで学習を進めていけば、単語暗記をしながら、次第に澄んでいながら強くキレのある[s]が発音可能になるでしょう。毎日練習して半年以上はかかると考えてください。それぐらい、微妙なところまで気をつけて、発音を練習する必要がある、ということです。

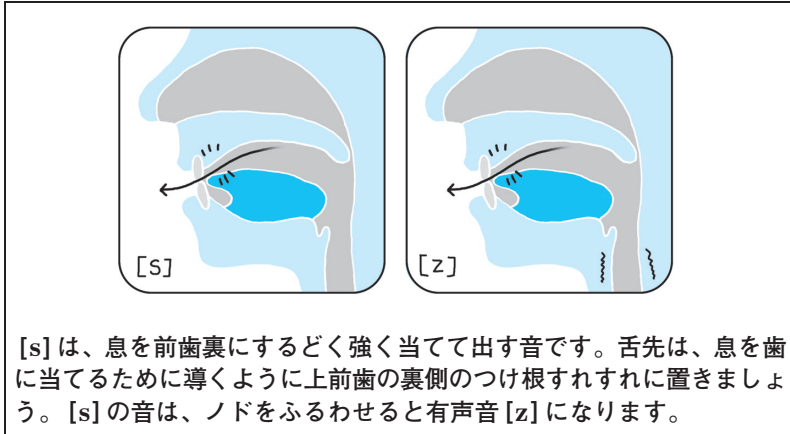
道は険しいように思えるかもしれませんが、前述したように、こうしてひたすら[s]音を極めると、英語の発音のマスターは目前になっています。がんばってください。

## Lesson 47

### [s+母音]

ここで最初に練習する音節は、[se]です。[se]にアクセントがある単語は、本書・実践編 Lv.2 の2000語内に27単語あります。内訳は、単語の冒頭に[s]音があって、そこにアクセントがある単語が14個。単語の中ほどにアクセントがある[s]音を持つ単語が13個です。

日本語の「せ」と英語の[se]の音の違いは、子音[s]の強さの違いです。英語の[se]では、[s]のところを強くはっきり発音してから[e]を添えるように発音します。この方法は、[s+母音]の発音すべてに言えることですので、覚えておきましょう。



日英の[s]と[e]の音量バランスの違いを下のイメージ図にしました。



上は、日本語の「セ」音のイメージです。「セ」では、[s]を十分ひびくまでは発音しません。弱い[s]につづけて[e]が発音されます。



上は、英語の[se]のイメージです。[s]を十分に発音してから[e]を添える感じで発音します。[s]を十分ひびかせるために、肺から強い息を送りましょう。

英語の[se]の発音を、スローモーションで見てください。まず肺に圧力をかけて、その圧力を息にして、上前歯裏の歯ぐきに送り出します。発音開始から0.05秒後には[s]の音が出始めます。十分に[s]音が立ち上がって大きな音になるまで息を吐きつづけます。ここで発音開始から0.15秒です。つぎに[e]の位置めがけて口をすばやく開きます。同時にノドをふるわせて[e]を発音します。ここまでで、発音開始から0.25秒です。口を開

いている間も、肺の圧力を保ち、息の勢いを保ちましょう。

では、語頭に音節 [se] がある 14 単語の発音の注意点を述べましょう。

はじめの単語 settle では、[se] のあとに軽く [tl] の音を添えます。[t] も [l] も子音です。これを「トル」のようにカタカナ音で発音しないことです。settle は 2 音節の単語ですので、ネイティブは settle を「2 つの文字」感覚で発音しています。ですので、[se] を 1 つの音、[tl] をそれに添える 2 つ目の音の感覚で発音すると、英語の発音になります。カタカナで書くと「セトル」と 3 拍になりますが、このように 3 拍のカタカナ音で発音すると、相手に通じにくくなります。

この settle のように、中央に同じ子音文字が 2 つ続く単語では、2 つの子音文字のまんなかで音節が分かれます。これは知っておくと便利な規則です。この音節の区切り方の感覚が体得できると、スペルの間違いもなくなってきます。発音から単語の学習に入ることの優位性が、ここからもわかりますね。

sex, self, cent などは、1 音節の単語です。[se] を 1 つの音として発音したら、残りの子音を軽く添えて終える——全体を 1 拍、つまり 1 音感覚で発音しましょう。母音のあの子音は弱く発音します。sex では [se] のあとに子音が 2 つ、[ks] と続きますが、この 2 つの子音 [ks] をひとかたまりの音としてなめらかにつなげて発音しましょう。慣れて、無意識にできるようになるまで、付録 CD をよく真似て、何度も練習してください。

他の secretary などの単語は、すべて 2 音節以上の長い単語です。2 音節とは母音を中心とした音節が 2 つあるということです。2 音節以上の単語を発音するときには、とにかくアクセントのあるほうの音節を、ていねいにはっきり発音するのがコツです。

## ●音番号 427 [se]

唇で[e]の形を作りながら、はっきり強く[s]を言い始めましょう。

😊 音番号 427 [se]		🎧 CD 2 の 67トラック目	
1161	set·tle	[sétl]	【他動】 落ち着かせる、置く
1294	sec·tion	[sékfən]	【名】 部分、区画、部門
1370	sex	[séks]	【名】 性、性別、セックス
1491	sec·re·tar·y	[sékrətəri]	【名】 秘書、《俗》事務員
1681	cel·e·brate	[séləbrèit]	【他動】 祝う
1931	sen·si·tive	[sénsətiv]	【形】 感じやすい、(神経)過敏の
1996	cer·e·mo·ny	[sérəmòuni]	【名】 式、儀式
2258	self	[sélf]	【名】 自己、自身
2328	set·tle·ment	[sétlmənt]	【名】 解決、和解、移民すること
2575	cent	[sént]	【名】 1セント貨
2658	sel·dom	[séldəm]	【副】 めったにない
2802	sec·ond·ly	[sékəndli]	【副】 第2に、次に
2819	sell·er	[sélə]	【名】 売り手
2955	sep·a·rate·ly	[sépəratli]	【副】 別々に

以下の13単語は、アクセントがある[se]の音が、単語の中ほどにある語です。発音のコツは語頭にある[se]の場合と同じです。たとえばourselvesでは、[se]のところを強くはっきりと発音します。続く[lvz]は軽く添える感じですが。

😊 音番号 427 [se]		🎧 CD 2 の 67トラック目	
1869	up·set	[ʌpsét]	【他動】 ひっくり返す、心を乱す
1594	etc.	[ètsétrə]	【副】 …など、et ceteraの略
1144	our·selves	[àuərsélvz]	【代】 我々自身
2456	ne·ces·si·ty	[nəsésəti]	【名】 必要性、必需品
1878	nec·es·sar·i·ly	[nèsəsérəli]	【副】 必ず、どうしても
2620	suc·cess·ful·ly	[səksésfəli]	【副】 うまく、成功のうちに
1362	es·sen·tial	[isénfəl]	【形】 (絶対に)必要な、欠かせない
2582	es·sen·tial·ly	[isénfəli]	【副】 本質的には
2438	ex·cep·tion	[eksépfən]	【名】 例外、特例
1889	per·cep·tion	[pəsépfən]	【名】 知覚(作用)、理解
2558	per·cent·age	[pəséntidʒ]	【名】 パーセント、百分率
2132	as·sem·bly	[əsémbli]	【名】 集まり、議会、組み立て
2947	de·scend	[disénd]	【自動】 下る(くだる)、降りる

## ●音番号 428 [sei]

2重母音 [ei] では、[e] を少し強く、[i] を弱く発音します。[ei] は1音感覚で発音しましょう。絶対に「エイ」と発音してはいけません。あえてカタカナで書けば、「エイ」のような感じでしょうか。[i] では、日本語の「イ」よりも唇を横に引いてください。「エー」に間違えられないためです。

[i] は、次の子音へのつなぎのための音です。たとえば、sail [séil] (船旅をする) では、[se] から直接 [l] に口を動かすと口の動きが大きいので、途中につなぎの [i] が入るのです。safe [séif] (金庫), sake [séik] (ため) なども、[sef][sek] よりも、間に [i] を入れたほうが、口の動きがなめらかになりますね。[i] は、アゴを上げ、舌も上げて出す音ですので、ほとんどの子音になめらかにつながり便利なのです。

### ☺ 音番号 428 [sei] | 🎧 CD 2 の 68トラック目

1312	sail	[séil]	【名】 帆、帆船、【自動】 船旅をする
2911	sail·or	[séilə]	【名】 船員、水兵
1407	safe·ty	[séifti]	【名】 安全
2450	safe·ly	[séifli]	【副】 安全に
1979	sake	[séik]	【名】 ため (for the sake of)
2385	sa·cred	[séikrid]	【形】 神聖な
2939	sen·sa·tion	[senséifən]	【名】 大評判、感覚

## ●音番号 429 [si]

[s] を十分に発音してから [i] を添えます。[s] を発音するときに、あらかじめ唇を横に引いて [i] の口の形を作っておきましょう。以下の13単語は、アクセントのある [sí] を語頭にもつ単語です。

### ☺ 音番号 429 [si] | 🎧 CD 2 の 69トラック目

1258	civ·il	[sívl]	【形】 市民の、民間の
1553	cit·i·zen	[sítizn]	【名】 市民、国民
1645	sink	[síŋk]	【自動】 沈む、【他動】 沈める
2228	sing·er	[síŋə]	【名】 歌手
2157	sim·i·lar·ly	[símələli]	【副】 同様に
1447	sym·bol	[símbɫ]	【名】 記号、シンボル
2572	sym·pa·thy	[símpəθi]	【名】 同情、共感
1119	sick	[sík]	【形】 病気の